

2023年度 インシデント・アクシデント一括公表

1 インシデント

レベル	件数	説明
レベル0.01	1799件 52.25%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されても患者への影響は小さかった（処置不要）事例
レベル0.02	463件 13.45%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されていた場合、身体への影響は中等症（処置が必要）事例
レベル0.03	98件 2.85%	誤った行為が発生したが、患者に実施される前に発見された場合 仮に実施されていた場合、身体への影響は大きい（生命に影響しうる）
レベル1	775件 22.51%	誤った行為が実施されたが患者への影響が認められなかった事例(例：薬の与薬時間が遅れた等)
レベル2	184件 5.34%	誤った行為が実施されたが、処置や治療は行なわなかった事例(例：転倒で打撲した箇所のレントゲン検査を行った等)
レベル3a	103件 2.99%	簡単な処置や治療(皮膚の縫合、消毒、湿布、鎮静剤投与等の軽微なもの)が必要になった事例

2 アクシデント

レベル	件数	事例概要	
レベル3b	19件 0.55%	○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサインの高度変化・人工呼吸器装着・手術・入院日数の延長・外来患者の入院等)	
		(事例の概要)	(再発防止の取り組み)
		・中央階段7段目より転落し鎖骨骨折して手術となった	・外来エレベーター2基の稼働、エレベーター案内の表示
		・転倒による外傷、骨折（5件）	・患者の状況に合わせた観察・介助方法の選択
		・中心静脈カテーテル挿入時により肺損傷し気胸を発症した（2件）	・CVC挿入に関する管理委員会を設置して管理システムを構築中
		・胸水ドレナージ時に肺損傷し気胸を発症した	・初期研修医は行わず、上級医が実施・実施医師は手順を再度確認した上で安全な手技に努める
		・気管支鏡検査中に肺損傷し気胸を発症した	・慎重な操作を行う
		・静脈注射による末梢神経損傷を発症した	・静脈注射の手順の確認・静脈注射認定部会による認定試験を受験
		・内視鏡処置中に消化管穿孔を起こし、緊急手術となった（2件）	・慎重な操作・合併症を予測した観察強化
		・誤投薬による血圧低下が見られ、処置が必要となった	・内服薬手順の徹底・確実な患者確認
		・内視鏡検査を実施中に胸腔ドレーンが抜去され、再挿入となった	・ドレーン挿入位置の確認・ドレーン挿入部位の観察
		・救急外来受診後に入院した患者の診療情報が、他診療科に引き継がれずに状態が悪化した（2件）	・他診療科との連携、情報共有
レベル4a	0件	○永続的な障害や後遺症が残ったが、A D L を害する機能障害や美容上の問題は伴わない事例	
		・なし	
レベル4b	0件	○永続的な障害や後遺症が残り、A D L を害する機能障害や美容上の問題を伴う事例	
		・なし	
レベル5	2件 0.06%	○死亡事例(原疾患の自然経過によるものを除く)	
		(事例の概要)	(再発防止の取り組み)
		・非侵襲的陽圧換気（NPPV）実施中の患者で経管栄養中に嘔吐出現し状態が悪化した	・NPPV時の経管栄養は少量持続投与とする・バイタルサイン測定の徹底と記録の記載
計	3443件 100%	・心筋梗塞に続発する心破裂の救急患者で、気管挿管後に人工呼吸器の作動が行われなかった	・人工呼吸器が作動を複数人でチェックする ・救急チームの連携改善シミュレーション実施